

はじめに

介護保険制度が創設されてから20年以上が経過し、この間には、少子高齢化の急速な進行や家族形態の変化、新型コロナウイルス感染症をはじめとした新興感染症の感染拡大など、高齢者を取り巻く環境は大きく変化してきました。

本市の高齢者人口は既にピークを迎え、総人口とともに減少に転じていますが、75歳以上の後期高齢者の占める割合は高くなっています。そうした中で、今後も一人暮らし高齢者や認知症を有する高齢者の増加が見込まれる一方で、高齢者の生活を支える生産年齢人口は急激に減少していくことが予測されます。



こうした状況を踏まえ、「高梁市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画（令和6年度～令和8年度）」は、高梁市総合計画に掲げた「健幸都市 たかはし」の実現に向けた、基本方針の柱の一つである「心のつながりを大切に支え合い助け合う健康のまち」に沿って策定しました。

計画期間中には、団塊の世代全てが75歳以上となり、その先の団塊のジュニア世代が65歳以上となる令和22年（2040年）を見据えると、介護予防や生きがい対策、健康寿命の延伸等の保健福祉サービスを総合的かつ計画的に進めるとともに、介護保険サービスの提供体制を確保するなど介護保険事業の円滑な運営を図っていく必要があります。

市といたしましては、高齢者が介護や支援を必要とする状態になっても、地域とのつながりや生きがいを持ちながら、住み慣れた地域で自分らしい生活を送ることができるよう、「医療」、「介護」、「介護予防」、「住まい」、「生活支援」を一体的に提供できる「地域包括ケアシステム」のより一層の充実と地域共生社会の実現を目指し、市民の皆さま、関係機関の皆さまとともに、計画を着実に実行してまいりたいと思います。

結びに、本計画の策定にあたり、多大なご尽力をいただきました高梁市介護保険事業計画推進委員会委員の皆さまをはじめ、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査等にご協力いただきました市民の皆さま、関係各位に厚くお礼を申し上げますとともに、今後とも本市の高齢者福祉施策に対しまして、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年3月

高梁市長 近藤 隆 則